

長田 伸夫氏 (59歳)

初のインデックスで、理事長杯を獲得!!



長田伸夫さん(59歳)は、5月の理事長杯で念願の優勝を果たしました。

決勝戦は、片山津・白山コースでしたのでコースハンディキャップが13と換算されました。

つまり長田さんは、85で

回ればアンダーハンディキャップのパープレーとなります。Hdcp8の時より5打余分にたたいてもパープレーです。

「13と聞いた時は、そんなにも回れるという驚きでした。だからガチガチの緊張感もなくホールアウト。普段より上出来のプレーができました」と満悦でした。

「インデックスという言葉を知った時は、まったく理解できませんでした。倶楽部の担当者何人も聞いて、インデックスは毎月月初めに新しくなることや、日本中はおもとより世界各国のゴルフ場で使われている世界共通のハンディキャップであるということを知りました。それを片山津では北陸で真先に採用したと言うんです。それなら協力しないとい

長田さんの理事長杯成績		
初日	GROSS82	CHP13 NET69
2日目	GROSS85	CHP13 NET72

けないと思って、インデックスを取得しました」。

片山津GCは、昨年の暮れから2014年倶楽部競技のすべてを「インデックス」に切り替えることを理事会で決定。競技に参加するならば自動的に「インデックス」に切り替えるべく倶楽部側も進めました。

「インデックスは、従来の倶楽部ハンディキャップに比べ、現在の実力をより正確に数値化したものですから、自ずと公平性が高められ、倶楽部競技も質の良い内容になります。参加者から大きな抵



「ゴルフがオリンピック種目になったことだし、日本も世界に通用するHdcpで楽しみたいね」と仕事もゴルフも前向き。

賀谷 真尚氏 (70歳)

歳をとれば、腕が鈍るのは当たり前。素直に受け入れよう



十数年前、友人が米国ペブルビーチでゴルフしたら一緒に回った外人が「今日は、幾つ幾つのハンディで回りますからよろしく」とあいさつしたという。

賀谷さんは、アメリカ人は特別のハンディキャップを使っているくらいに友人の話を聞き流していたという。

今年70歳の賀谷さん。往年は

シングル6まで伸ばしたが大病して9に下げた。しかしシングルのプライドを外すことには抵抗があった。

「いつもの仲間とラウンドしても、勝つチャンスがないことはわかっているけれど...9をさらに下げることに素直になれないです」

そこへ片山津GCのハンディキャップ委員会がインデックス導入を検討。競技委員会、最終的には理事会の了承を得てクラブ競技のすべてがインデックスに本化された。競技委員会のメンバーである賀谷さんは、友人のペブルビーチの話を思い出しながら説明を聞いて二つ返事で導入に同意した。



「インデックスは、毎月毎月見直されますので実力に近い数字でプレーでき公平感があります

た。これからもインデックスで無理をしないゴルフ、アンチエイジングを心掛けていつまでも健康で楽しいゴルフを続けてください。

賀谷さんの月例杯の成績	
3月月例杯	(インデックス=26.4)
白山コース(フロント)	成績=14位(C組)
NET80	CHP22 GROSS102
4月月例杯	(インデックス=18.5)
加賀コース(フロント)	成績=43位(C組)
NET82	CHP21 GROSS103
5月月例杯	(インデックス=18.6)
白山コース(フロント)	成績=11位(C組)
NET72	CHP21 GROSS93

※CHP=コースハンディキャップ

藤本さんの月例杯の成績	
3月月例杯	(インデックス=13.2)
白山コース(レギュラー)	成績=7位(B組)
NET77	CHP16 GROSS93
4月月例杯	(インデックス=12.5)
加賀コース(レギュラー)	成績=2位(B組)
NET69	CHP14 GROSS83
5月月例杯	(インデックス=12.8)
白山コース(レギュラー)	成績=7位(B組)
NET73	CHP15 GROSS88

藤本 晃英氏 (44歳)

Hdcpが11から12台へ。悔しいけどこれが実力



インデックスになってHdcpが11台から12台になったけれど、「これが自分の本当の実力なんだ」と冷静に受けとめる藤本さん。さすがインテリジェントな医師の矜持がありました。

「インデックスになってモチベーションが高まりました。倶楽部ハンディの時は優勝ラインとかを自分で決めちゃって、それを目標にプレーをしていました。だから途中で崩れると「今回はダメだ」と

を見つけると、どんな小さな活字も必ず切り抜き、ファイルしておられたそうです。

しかし、母親が昨年の暮れから容態が悪く、無常にも今年3月に他界。切り抜きファイルされたはずの息子の理事長杯の新聞記事は伸夫さんの手元に残されたままです。

「ゴルフに勝つということは、運が味方しないことには実現しない。しかし今回の優勝は、それだけではなく母親の思いが手貸してくれたおかげです。感謝しています」と長田さんは手を合わせた。

自分であきらめてしまふ。競技へのモチベーションも弱くて、どこか気の抜けたゴルフをしてしまっています。

インデックスだと18ホール緊張感をもってプレーしないといけません。4月月例で、もしかしたら優勝かなと思つたら上がりました。今日も後半でトリを2回やっちゃいました。私だけでなく皆さんのハンディも優勝のチャンスが公平にあるので、失敗が許されぬ。倶楽部ハンディではこんなスリル感はないですね。

Hdcpが11になったのは何年も前で、いまは年齢的に下降線です。シングルになることを諦めかけていたけれど、思ったより下げ幅が少なかった(12.8)、自分の実力を見直しました。もう一度シングルに向けて頑張ってみよう、それにはまずインデックスを11台に乗せることです。

先陣を切って、インデックスに踏み切る

片山津ゴルフ倶楽部

片山津ゴルフ倶楽部では、ハンディキャップ委員会と競技委員会が協議し、倶楽部競技のハンディキャップを従来の倶楽部内ハンディキャップからJGAのインデックスに切り替えゴルフシーズンの始まりである3月の月例競技で実施されました。

中部地区でも初のインデックス導入であり、小杉ハンディキャップ委員長に先陣を切って実施されたその胸中を語っていただきました。

ハンディキャップ委員長 **小杉 善嗣氏**(右)



そこで実現させるには「一番影響力のある月例競技に焦点を合わせる」と。しかもタイムリングは3月の月例から始めた方がよい。まずターゲットと日程を決めておいて臨時委員会を開き、理事会の承認をいただきました。

●月例競技で採用すれば全倶楽部競技へのインデックス二本化が可能ということですね。

小杉 片山津には、会社側、倶楽部事務局、そして委員会との意思の疎通に一体感があります。私自身も最初は「こんなこと出来るか!」と半信半疑でしたが、事務局側がよく勉強してくれて何度もわかりやすく委員に説明してくれました。事務局の努力には感謝しています。

●インデックスへの移行で営業面の心配はありませんでしたか
小杉 確かにありました。他の倶楽部の競技会へ行ってしまうの

でないか心配でした。会社側が一番それを心配するのではないかと考えていたら、インデックスに対する考え方が会社も前向きでホッとしました。

全体の傾向として、昨年より参加人数が増え、これまで月例に参加されていなかった「新顔」のメンバーが多く見られるようになりました。

●片山津GCという老舗意識はありますか
小杉 過去に日本オープン、日本女子プロなどをやっているし、来年は日本女子オープンを控えています。だからこそ、そんな倶楽部が、あれ、インデックスやつてないの、と関東や関西からのお客様さんに言われたらまずいじゃない。きちんとJGAオフィシャルハンディキャップで倶楽部競技が行われている姿勢をみせないと名門とは口だけかと言われ



かねません。

●今後は片山津がリーダーとなって普及のための啓蒙活動が重要ですね。

小杉 そうです。われわれはJISで苦い経験をしているので先ずはメンバー全員への周知徹底でしょうね。

プライベートでもインデックスの換算表を見て、コースハンディキャップを確認してプレーをする習慣をつけないとね。そしてプレーが終わったら必ずスコアカードを出していただくことをお願いしたい。

他倶楽部の競技もインデックスに切り替わってくると、ゴルフは面白くなると思います。

これまで考えられなかった新しい競技会を作ることでも可能です。例えば近隣の倶楽部同士で月例交歓会など。ビジターも参加できるインデックスオープン競技など、インデックスはビジターでも取得(有料)できますからビジター客を呼び込むことも考えられると思います。

頑張ってください。インデックスが北陸から広がることを期待しております。(インタビュールCGA編集室)



ハンディキャップ委員の皆さん(4月9日撮影)